

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	40	学 校 名	科学技術高等学校 定時制	校 長 名	大澤 貢
------	----	-------	--------------	-------	------

1 スクール・ミッション

中部地区唯一の夜間定時制工業科として、社会体験活動と少人数での授業・実習を通して、創造力を培い、地域産業界において将来を担う人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー

本校では、保護者や地域はもとより、県内外から信頼・期待される学校を目指し、以下のような人材を育成します。

- 職業人として必要な基本的な能力を有し、生産現場を支えることができる人材
- 望ましい勤労観・職業観を持ち、自己実現に向けて努力することができる人材
- 協調性がある、忍耐強く何事にも立ち向かうことができる人材

カリキュラム・ポリシー

本校では、グラデュエーション・ポリシーの実現を目指し、教育課程を編成します。

- ものづくりの基礎基本や職業人に必要な基礎知識の修得を推進します。
- 望ましい職業観や協調性を身に付けられるよう、環境を整備します。
- 少人数のグループで手厚く授業や実習を行い、個に応じた指導の充実を図ります。

アドミッション・ポリシー

本校では、下記のような生徒を求めています。

- 「ものづくりを通して、未来を切り拓く感性と創造力を培い、社会に貢献できる科学技術のスペシャリストを育成する」という基本理念に共感する生徒
- 自己実現に向け、学習に取り組む意欲がある生徒
- 職業人として、地域産業界で活躍する志を持つ生徒

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

「ものづくりを通して、未来を切り拓く感性と創造力を培い、社会に貢献できる科学技術のスペシャリストを育成する」を基本理念に、学校生活が活気に満ち、保護者、地域はもとより、県内外から信頼され、期待される学校として、以下のような人材を育成することを目指す。

- ① 職業人として必要な基本的な能力を有し、生産現場を支えることができる人材
- ② 望ましい勤労観・職業観を持ち、自己実現に向けて努力することができる人材
- ③ 協調性がある、忍耐強く何事にも立ち向かうことができる人材

ア 教養を高めるとともに、ものづくりに必要な基本的知識・技能を習得させるため、教科指導を推進する。(①)

イ 基本的生活習慣を身に付けさせ、自己肯定感を育みながら就業支援を推進する。(②)

ウ 「いのちの大事さ」を意識した安全教育及び他人を尊重する人権教育を推進する。(③)

エ 教育の質を確保するとともに、業務改善を推進し、その適正化を図る観点から、教育課程の研究や教職員研修の推進等を通して、生徒を取り巻く教育環境を改善していく。(①)

様式第1号

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当 部署
ア	基礎学力の定着を通して教養を高め、専門教育の学習につなげる。	「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツールを活用し、授業改善と評価の在り方等について研究を深める。	・測定ツールで把握した学力に基づき、「授業の内容がよく分かる」と答える生徒 65%以上 ・「学校生活に満足している」と答える生徒 70%以上 ・「授業は適切で学力向上に役立っている」と答える保護者 70%以上	教務
	個々の生徒のニーズに対応した教科指導を行う。	外部の人材を活用し、学び直しの機会を充実する。	・大学生等による個別指導 50 時間以上	
	カリキュラム・マネジメントを推進する。	新しい学習指導要領に関する研究を深める。	・移行措置等を踏まえ、教育課程について研究する。 ・各種の内規を見直し、改善する。	
イ	基本的生活習慣を定着させる。	欠席、遅刻を少なくする。	・年間皆勤 10%以上	教務
		あいさつの励行に努め、場に応じた服装や態度を身に付けさせる。	・「あいさつができています」と答える生徒 80%以上 ・「お互いに安全で安心できる学校生活を維持できるように意識して行動している」と答える生徒 80%以上	生徒
	就業意欲を向上させる。	三修制への参加を促進する。	・1年生の三修制 10%以上	教務
		本校への指定校求人による進路決定を実現する。	・就職内定率 100% ・「自分の将来に対する、はっきりとした夢や希望を持っている」と答える生徒 50%以上 ・「きめ細やかで適切な進路指導が成されている」と答える保護者 60%以上	
	専門性を高め、進路実現につなげる。	ものづくりを主眼に置いた実習の時間を十分に確保する。	・多くの成果物を完成させ、合同文化祭等へ出展する。 ・「自然科学やものづくりに関心がある」と答える生徒 60%以上	工業
	あたたかみある教育活動を推進する。	多様で分かりやすい講演会を効果的に実施する。	・実施回数 4 回以上 ・生徒の満足度 80%以上	教務
	就業先との連携を密にする。	生徒の就業場所調査を年間 2 回行う。	・生徒が勤める事業所への訪問各学期 1 回以上 ・事業所の関係者との説明会実施	
	生徒会活動及び部活動を活性化する。	生徒のニーズを踏まえながら、それぞれの活動を充実させる。	・部活動に参加している生徒 50%以上 ・「自分にはよいところがある」と答える生徒 50%以上 ・「学校が楽しい」と答える生徒 70%以上	生徒

様式第 1 号

ウ	交通安全教育を推進する。	交通安全教室やグッドマナー教室を活用するとともに、登下校の自転車指導を行う。	・交通事故件数「0」件	生徒
	防災訓練を推進する。	通常の日課（夜間）の中で避難訓練を実施する。	・避難場所への避難完了3分以内 ・避難訓練の実施3回以上	総務
	人権意識の高揚を図り、個性を尊重する精神を涵養する。	いじめやDV等に関する講座を開催する。	・いじめの認知件数「0」件	全体
	特別支援教育体制を確立する。	困り感のある生徒を早期に発見し、関係職員が連携して支援を行う。	・出身中学校への訪問実施 ・個別の指導計画及び支援計画の作成 ・「困ったことや悩み事などを相談できる人（親、先生、友達等）がいる」と答える生徒70%以上 ・「学校に信頼することのできる先生がいる」と答える生徒70%以上	
エ	保護者との連携を推進する。	携帯連絡メールへの登録を促すとともに、ホームページを活用して、学校の様子を積極的に配信する。	・保護者の携帯連絡メールへの登録率80%以上 ・保護者の学校行事への参加率20%以上 ・ホームページの更新年50回以上	総務
	教職員のメンタルヘルスの増進及びコンプライアンスの徹底を図る。	メンタルヘルス及びコンプライアンスに対する意識を醸成する。	・メンタルヘルス及びコンプライアンスに関する研修の実施1回以上	総務 教務
	教職員の資質・能力の向上を支援する。	各種研修会や研究会での成果の還元を促す。	・研修の成果を授業改善や学校運営に役立てた教員80%以上 ・授業参観した教員80%以上	
		授業改善への意識を啓発し、実効的に推進する。	・授業力自己診断の実施 ・「学びの基礎診断」などの測定ツールを用いてPDCAサイクルによる授業改善に取り組んだ教員100%	
	校務の円滑、かつ適切な実施を推進する。	ICT機器の整備を推進する。	・日常的に授業でICT機器を活用した教員70%以上	総務 教務
		校務で使用する文書・名簿等を共用できるように整理する。	・全員の職員が校務で共有サーバーを使用する。	総務
		業務改善に対する意識を啓発し、積極的に取り組む。	・業務改善提案を募る。 ・「勤務の平準化が図られた」と答える教員70%以上 ・「生徒と向き合う時間や授業準備時間が持てた」と答える教員70%以上	全体
		施設・設備の整備、改善に取り組む。	・施設設備に係る生徒事故0件。	事務

（記入上の留意点）

具体的な重点項目が外部の方にもわかりやすいよう、工夫して記載すること。